

日本・シンガポール・シンポジウムでの
基調挨拶（ビデオメッセージ）
（令和8年9月11日、於：シンガポール）

- 外務大臣の茂木敏充です。
- 両国の外交関係樹立60周年に当たる本年の、「日本・シンガポール・シンポジウム」の開催をお祝い申し上げます。
- このシンポジウムは、国際社会が冷戦構造に代わる新たな時代の枠組みを模索していた1995年に立ち上がりました。今や、地域・国際社会が直面する課題への対応を議論し、日本とシンガポールの連携の強化を支える貴重な知的基盤へと発展しています。これまでこのシンポジウムに関わってこられた方々に、深く御礼を申し上げます。
- 世界は今、パワーバランスの変化や紛争・対立の激化などを受け、再び大きな構造的変化に直面しています。
- こうした歴史の転換点において、基本的価値や原則を共有し、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を共に擁護・推進してきたシンガポールは、日本にとって、非常に心強い地域のパートナーです。
- 今年3月、ウォン首相の訪日に際し、両国は二国間関係を「戦略的パートナーシップ」に格上げするとともに、「自由貿易及び経済協力の推進」、「デジタル化と技術」といった協力の優先分野を特定しました。

- 私も、長年の友人であるバラクリシュナン外相と共に、協力を具体化し、日本とシンガポールの関係を更に前進させていく考えです。
- シンガポールは来年、ASEAN議長国を務めます。インド太平洋地域全体が「共に、強く豊かになる」ために、重責を担うシンガポールと連携して、日・ASEAN協力も一層前進させていきます。
- 本日のシンポジウムは、両国の関係者が一堂に会し、両国の「戦略的パートナーシップ」の更なる進展に向けて、活発な議論を行う貴重な機会です。
- 両国の多層的、多角的な知的基盤を更に強化させるため、有意義な議論が行われることを心から期待し、私の挨拶とさせていただきます。

(了)